

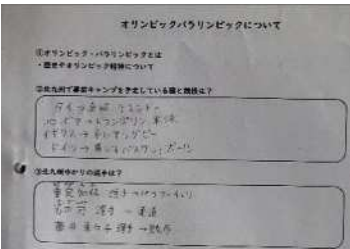
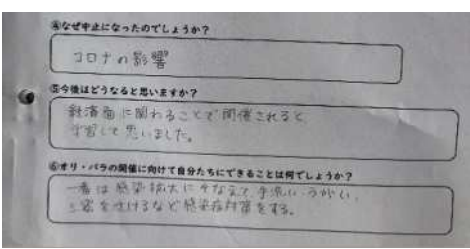
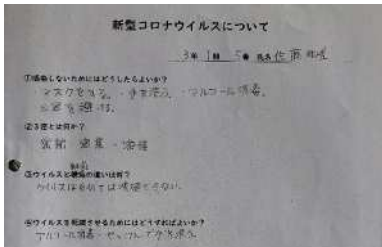
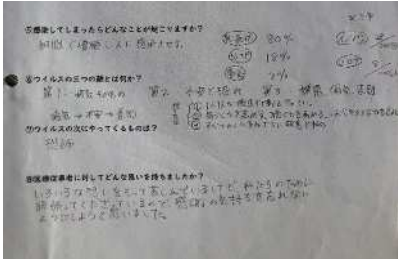
2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 城南中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	全学年 140名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名 (保健体育) ② 行事名 (クラスマッチ オリパラリモート勉強会)
4 目標 (ねらい)	オリンピックの意義や歴史、オリンピズムについて深く学ぶことで、生徒たちの中に、多くの「気づき」が生まれ、人生をより良いものにするためのきっかけをつくる。また、新型コロナウイルスによって延期されているオリンピック、パラリンピックを「開催」「成功」させるために、何が問題でどんなことが必要なかを学び、今の自分たちができること、すべき行動を考えさせる。そして、開催された時の喜びや感動を増幅させ、運動への興味・関心、スポーツを楽しむ心の醸成をはかる。
5 取組内容	<p>取組① オリンピック、パラリンピックの意義、歴史について学ぶ授業を行った。昨年もオリンピック・パラリンピックについては授業で学習したが、今回は意義や歴史に加え、北九州ゆかりの選手や、事前キャンプを行う国、新型コロナウイルスによる影響などを学習した。</p>   <p>取組② 新型コロナウイルスによる開催延期の現状について学習し、新型コロナウイルスとは何なのか、1年後の開催可否などについて学び、話し合い、課題点を自分たちなりに見つけ、今の自分たちに何ができるかを考えワークシートにまとめた。</p>  

取組③

体育の授業ではオリンピック種目を取り扱い、授業とオリンピックの繋がりを意識しながら授業を進めた。また、体育大会の代替えとしてクラスマッチを企画し、本校の運動部活動であるバスケットボール、サッカー、卓球の3競技とリレーを加えた4競技で競う、クラスマッチ「校内オリンピック」を開催した。「する、見る、支える」をスローガンに掲げいろいろな側面からスポーツと関わるように指導した。



↑クラスマッチの様子

取組④

「岡田隆さんとのリモート勉強会」を3年生対象におこなった。

事前学習として岡田氏の紹介を行った後に、どんな勉強会にしていくかを生徒主体で話し合った。その中で質問内容、質問者、司会者、シナリオなどを決定し準備を進めた。

・勉強会では生徒が質問を行い、岡田さんに答えてもらう形式をとり、Zoomを使用してリモート形式で実施した。

質問内容

- ①1年延期になっているが、選手の方々のモチベーションはどうでしょうか？
- ②オリンピック男子柔道競技の強化部長として一番大変だったことはなんですか？
- ③緊張をほぐす良い方法や試験会場などで使える緊張をほぐすストレッチなどはありますか？
- ④ボディービルダーを目指したきっかけはなんですか？
- ⑤ボディービルダーになるために必要なことを教えてください。
- ⑥日々の食生活について教えてください。
- ⑦鶏肉の一番おいしい食べ方を教えてください。
- ⑧健康を保つためのポイントを教えてください。
- ⑨睡眠は体の成長に関係がありますか？
- ⑩どうすれば身長は伸びますか？また、中学生の時にウエイトトレーニングをすると身長が伸びないと聞きましたが、本当ですか？

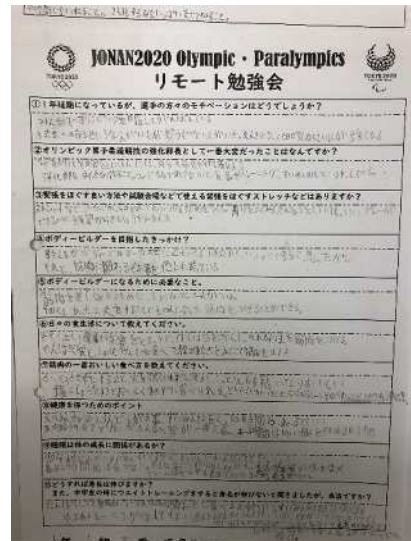
- ・生徒は岡田さんの回答をワークシートにまとめる。
- ・回答に対する追加の質問も受け付け、生徒が積極的に発言できる機会をつくった。

勉強会では、オリンピックの現状、選手たちの状況、運動の大切さ、健康に生きていくポイントを学んだ。そして、後日、オリンピック、パラリンピックについてや健康について、考えたこと、学んだことを発表しあい、今の自分たちに何ができるかを再認識させた。また、その様子を撮影したものを編集し、他学年の授業でも取り扱い、全生徒が同じように学習できる機会を設定した。



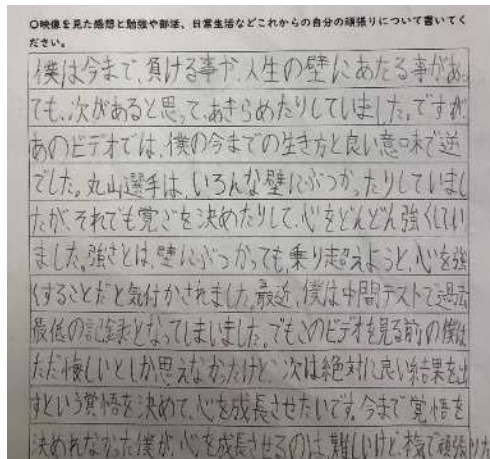
↑ 3年生リモート勉強会の様子
ワークシート→

1. 2年生の様子↓



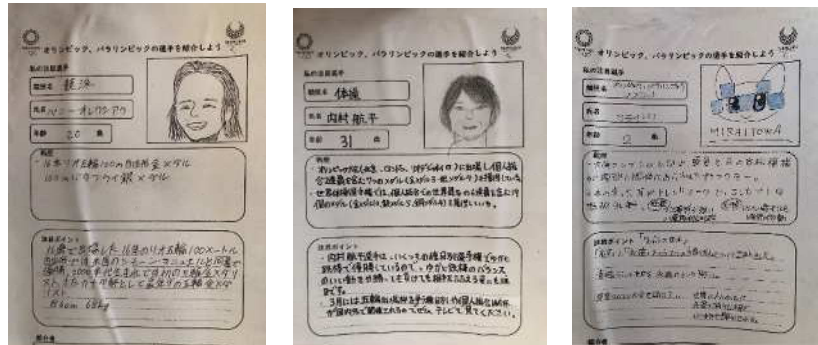
取組⑤

男子柔道-66kg級の阿部選手と丸山選手の最終選考戦をVTRで観戦し、オリンピックにかける選手の思いや努力を重ねる姿、コロナ禍でもひたむきに目標に向かって力を尽くす姿を見て感じたことや、これからの自分について感想を書いた。

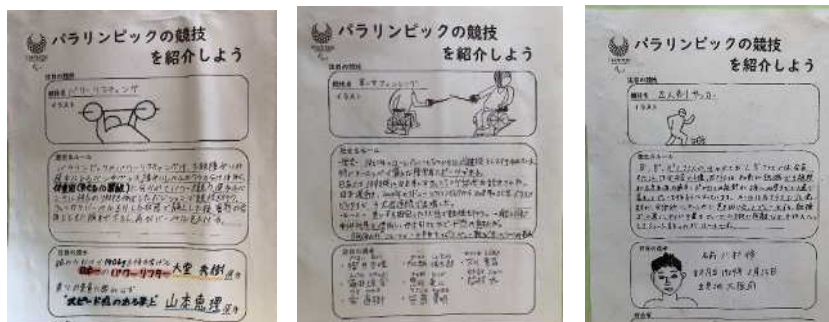


取組⑥

オリンピック注目選手紹介、パラリンピック競技紹介
 スポーツは「する、見る、支える、知る」の観点から「オリパラを知る」
 をめあてに調べ学習を行った。タブレットを活用して、注目選手、気になる
 パラリンピック競技をそれぞれ一枚のプリントにまとめた。また、出来
 上がったものをグループ内で紹介し、情報を共有した。



↑オリンピック・パラリンピックの選手を紹介しよう



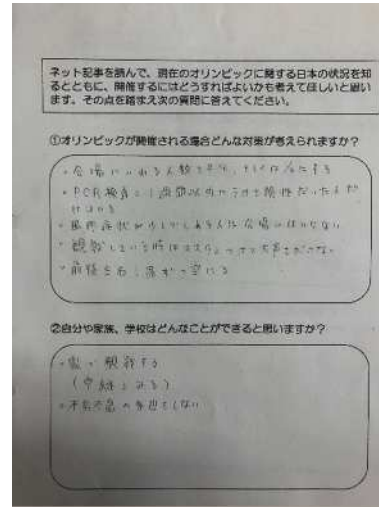
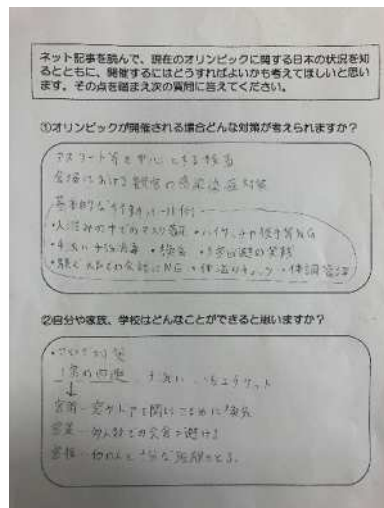
↑パラリンピックの競技を紹介しよう。



取組⑦

まとめ

オリンピック・パラリンピック教育のまとめとして、コロナ禍である日本
 の現在の状況をニュースの記事をもとに学習し、オリンピックの開催の可
 否について考えさせた。そのうえで「開催するためにはどんな対策が考え
 られるか」「自分や家族、学校ではどんなことができるか」をまとめさせた。



6 主な成果

本取り組みの目標は以下のとおりである。

- ①オリンピックの意義や歴史、オリンピズムについて深く学ぶこと
- ②人生をより良いものにするためのきっかけをつくること
- ③新型コロナウイルスの影響によって延期されているオリンピック、パラリンピックを「開催」、「成功」させるために、何か問題でどんなことが必要なかを学ぶこと
- ④今の自分たちにできること、すべき行動を考えさせる。
- ⑤開催された時の喜びや感動を増幅させ、運動への興味・関心、スポーツを楽しむ心の醸成をはかる。

城南中学校では7つの取組みを実施し上記の目標をすべてをおおむね達成することができた。

取組①では歴史や意義、オリンピズムを学習するとともに地元北九州がどんな国と連携を図り、どんな取組みをしているのか、また、今までどんな選手を輩出し、東京2020大会にどんな選手が出場予定になっているのかを学習することで、親近感を沸かせることがで、興味や関心を抱かせることができた。

取組②ではオリンピックを延期させた新型コロナウイルスについて学習し、感染拡大防止には一人一人の行動が大切だということを再認識し、さらにはコロナ差別にも触れ国際理解、平和に共存することなどを提唱するオリンピズムと絡めて学習することで、人権問題についても考えることができた。

取組③では中体連や体育大会が中止になり生徒の活躍の場が減った事、また、協力して何かをやり遂げるといった仲間との一体感を感じる瞬間を一つでも体験させたいという思いから取組みを計画した。「する、見る、支える」をスローガンに掲げることで生徒一人一人が主体的に考え行動し、お互いの頑張りを認め合いながら協力して運動に親しむことができた。

取組④ではオリンピック選手を一番近くで見守ってきた岡田隆さんに自粛中の選手の様子や練習再開後の様子、気持ちの変化、目標に向かって頑張る姿など普段知ることのできない秘話を中心に、体の成長について、健康に生きるための秘訣、睡眠の重要性、プライベートな内容など多岐にわたって質問に答えていただき、多くのことを学ぶことができた。

取組⑤ではオリンピック選手の選考会を題材にし、選手たちが人生をかけて挑んでいる姿、それを支えている家族や仲間の姿を見ることでオリンピック・パラリンピックに対する興味や関心を増大させることができた。また、「スポーツは感動を与える」ということ、「頑張ることは素晴らしい」ということを感じさせることができた。

取組⑥では「する、見る、支える」のほかに「知る（調べる）」もスポーツとの関わりかたの一つであることを再確認し、自分の注目選手を調べ、発表することでさらに知識を広げ、興味や関心を高めることができた。また、パラリンピック調べに関しては障害者スポーツについて調べ学習を行うことで、障害を持つ方々への理解、マイナスと思われがちな障害をプラスの方向に転換している姿を知ること、尊敬の念が生まれ共生社会への一歩となったと感じた。

取組⑦ではオリンピックを開催するにあたっての対策や自分たちにできることを考えることで、新型コロナウイルスへの正しい対処法や今後の行事の開催について一人一人がどんな対策ができるかなどを考える力を身につけることができた。

	<p>全体を通して多くのことを学ぶことができ、オリンピック・パラリンピックの開催について、興味や関心が高まったのは間違いない。この取り組みが学校生活や、今後の行事に生かすことができるように継続して取り組んでいきたい。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>オリンピック・パラリンピックへの興味や関心を高めることが第1の課題であった。オリンピックというかけ離れた世界を身近な事と結びつけ、少しでも親近感を持てるように工夫した。</p> <p>また、昨年オリンピック講演会を行っており、ロンドンオリンピック銅メダリストの西山将志さんを招聘して講演会を行ったことが、今回のオリパラ教育と結びつき、生徒たちの心に響きやすかったとも考えられる。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、岡田隆さんの講演会を急遽リモート形式に切り替えた。3年生のみの対話形式にしたこともあり、講演会では体験できない近い距離感で実施することができた。</p> <p>調べ学習においてもタブレットが導入されたことにより、調べ学習がスムーズに進み、全体を通して収穫の多い取り組みとなった</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>講師へのアポイントがうまくいけばどの学校でも実施できる内容であり、リモート形式で行うことができるので費用も抑えることが可能である。大きな課題もなくスムーズに行うことができた。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>オリパラ委員会を発足し調べた選手や競技の結果の速報を掲示したり、興味や関心の高い競技に関しては授業で取り扱える範囲で実施したりすることで興味や関心をさらに高め、継続的な学習に繋げていく。また、参加した選手やスタッフに体験談を話してもらう機会を設け、パリのオリンピックにも繋がられるように取り組んでいく。</p> <p>大会が開催できなかった場合についてはどのようにしていくかよく考えて取り組んでいきたいと思う。歴史的に類を見ない状況を選手たちがどのように乗り越えていくのか。次のオリンピックにどのようにつなげていくのか、「する、見る、支える」の視点から選手、応援、支援団体がどのような動きをしていくか、「しっかりと調べて」今回の取り組みがここで終わらないように工夫していきたい。</p>